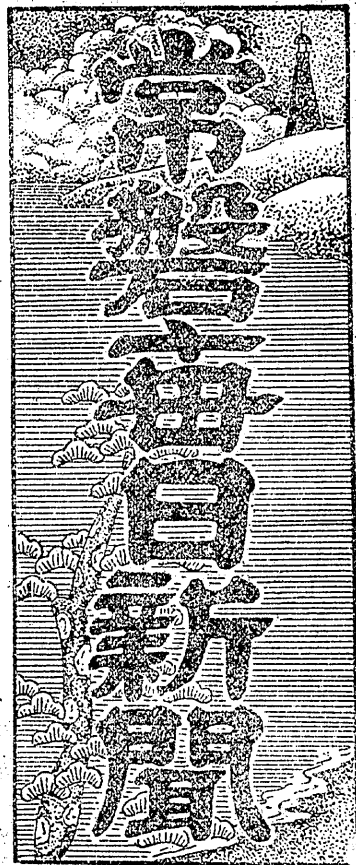


【刊夕】日九月二十



原五税郵 錢十五月一 錢貳金部一 價定
錢十五行一 語字三十號五 料告廣
治文 崎川 人刷印人職編筆行發
五三町橋長町平郡城石縣島福
番〇三六話電 社聞新日每警常 所行發
社會式株刷印日每警常 所刷印

短歌會雜感

白木英尾

初め私にも出詠するといふお話だったが「木枯」だ「蜜柑」だといふ課題に恐縮しちやつて手も足も出なかつた。それでも創作社の天野氏が來會するといふので二三の問題を用意して行つたのだが途々お見えにならなかつたので遠來の賓客に失禮しないで済んだ譯だ。私自身もその前日まで重い風邪で臥つてゐたのを無理して行つた所爲か短歌會が始まると終るまで全く優れない気分であつた。

先づ最初夥しい詠草に氣を配られる、それを一字一字眼を通してこれは「と」思つた。これだけの歌を突きつけて置いて扱てどうするんだらうと思つた。そして之れまでに苦心した出詠諸氏の尊い努力を考へてゐた短歌會とは詠草を互選してこの句がどうのあの句がどうのヤレ調子がヤレ文法がと述べ立て、ゆく所だらうか、單にそれだけの事では余りに雅氣過ぎる余りに甘過ぎるではなからうかと思ふ。之をもつと突込んで

一首の價值批判に入るべきではなからうか、乃至は作者の作歌態度に就いて論じるべきではないか、その位にやらないと短歌會の意義が徹底しない氣がする。一時の風流や感傷で喋舌つてゐたのでは話がいつまでも他所行きた。ロジックのない批評は聞くに値ひしない寧ろ短歌に對する各人の觀念を聞きたくなる。只漫然と歌を眺めてゐたのでは些つぱり興味が無い、無益な事だと思ふ、然し當日の空氣が何だかみよふにかしこまつて、こゝろお上品に控へ

て居られる方が多かつたので之は私などの出る幕でないやうな氣持にさせられた。サテモ短歌會とは窮屈な所であるといふ氣がした、何かお仰言つて戴きたい様な大家諸氏に嚴然と控へてゐられるので私など氣の弱いものは何も喋舌れない、甚だ味のないものになつてしまつた、短歌會はもつと明確な目的意識を持つべきでなからうか、之をいつその事少數の人々が各の立脚点から短歌を論じていつたら短歌會も華々しいものになるだらうと思つた。

火耀短歌

官製はかき一葉三首
あて名は本社文藝部
締切は毎週土曜日

山原の枯原のなかに寝てゐしに人ひそやかにのぞきて
行けり
竹 山 眞

ひそひそと首切りの噂してゐたる四十路男のさびしい
笑顔
水 野 良 一

この氣持を盛り立て、行かう發火點近いねつとりした
工場の空氣
菊 川 康 夫

偶然逢つたあなただが何も言ふことのない私感情の
なしさをしづめてゐる
志 来 眞 樹

がらんとした農家、執達吏に、赤ん坊の泣聲がぶつ
かつてくる
白 木 英 尾

堅實なる安價品

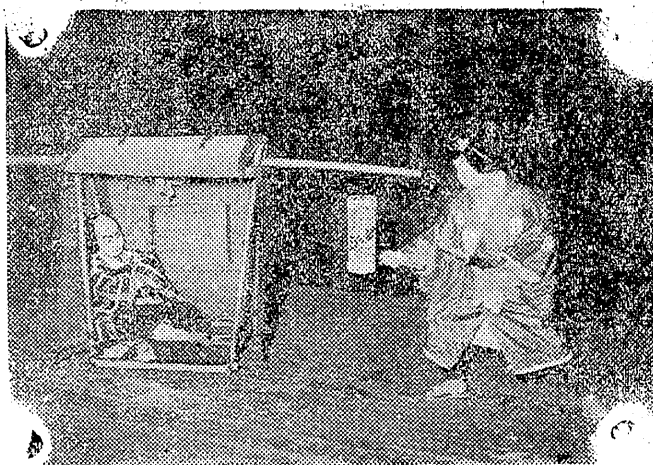
- 毛糸1オンス—12錢
- 小供チヤケツ—30錢
- 小供メリヤス—12錢
- 大人メリヤス—45錢
- コツトンシヤツ1門50錢
- 純毛都—1門より

薄い初霜おちて
吐く息も朝夕ほの白く
暖かい冬物の御用意は

買よき店

モリタヤ洋品店

座劇國新革同合派三



會劇安慰者讀愛

演開圖合火煙時四後午 日九月二十る來

特別出演
天才 中野晴子
才 中野艶子
兒 中野弘子

名 松本幸四郎丈
優 尾上菊五郎丈
指揮ヲ受タ兒童劇
一行八十名大一座

主演 中野興業社
劇場 聚樂館
平 町

後援 各新聞販賣店一同
◎販賣店新聞特別優待券進呈致し升

むさ小鳥と

鳥 肉 は

電話二一八六番へ

時節から御客様の望みに添ふ様御勤め致します
良い肉安く賣る店

鳥 菊
平 南 町

中村新町(元新龜跡)

御料理 生そば 丸 杉

主 杉 荒 吉
電話一七四番

毛糸……と編物用具は

- 優等百合印毛糸—高級霜降毛糸
- 優等中細毛糸—優等極細毛糸
- スコツチ毛糸—英國製毛糸

平町田町 ハシモトヤ糸店

科外

門 專 X
科 線 光

上田外科醫院

平町南町
電話一二九番

新年文藝懸賞募集

初春の紙を飾る
締切 十二月廿日
用紙 官製はがき
宛名 本社文藝部

和歌「羊山」 一人各三首限 高久晚霞氏選

俳句「春著」 一人各三句限 渡邊何鳴氏選

童謡「正月」 一人各二篇限 川崎小鳥氏選

詩「隨意」 一人各一篇限 片寄耿二氏選

短歌「光」 一人各五首限 白木英尾氏選

●投書には「新年文藝」と種目とを必ず明記すること

●入賞者を一名 二等二名 三等三名に分ち各賞品を呈す

一反歩の利益は たつた五圓

農家の生産費を 石城郡農會調査

米價で農家の疲弊はその極に達して石城郡農會で郡下の農家から選り米の生産費一ヶ年間收支を控へた資料調査はこの程漸く完了したこれによると一町三段五畝二十歩の自作農で支出内

自給肥料	一四八、七〇〇
金肥	五二、〇〇〇
勞力	二五九、八一、三〇〇
馬	三九頭 一〇、七〇〇
農具	一〇、五二〇
諸材料	九、一五〇
の具建物	一、二〇〇
公租公課負擔	一五九、〇〇〇
合計	六三三、六九〇

であつた、これによつて見ると一段歩當りの總支出は

四十六圓八十錢である、現在の商況米價一石十五圓六十錢の計算によると収入は反當り

玄米三石	四六、八〇〇
屑米五升	〇、三〇〇
ワラ代一五三貫	四、五九〇
モミ穀二貫	〇、二一〇

茨城縣是製糸が 濱通りに進出か

某村の産業技手を通じ 買収斡旋方を依頼

全國縣是製糸の重鎮茨城縣製糸では極めて萎縮してゐる本縣の製糸界に活躍すべくこの程石城郡某村駐在の某産業技手を通じひそかに濱通り

製糸場の 買収斡旋方を依頼して来たが右について其技手は本縣の如き數多くの製糸家が枕を並べて討死同様の状態にある時茨城縣是製糸の如き内容の堅實な會社が進出することは吾々關係者として大いに賛成である事は養蠶の救済にある事だから茨城縣是製糸の意に叶ふ製糸場が濱通りにあるなら

出來得る 限り盡力したい云々と語つてゐたが此の問題は本縣製糸界に大きなセンセーションを巻き起すものと見られてゐる

ガード改修 道路變更 御免蒙る

石城郡内郷村大字御台境内の常磐線と一線の二ヶ所

検査米獎勵 組合を組織

改正された産米生産検査の普及は石城地方の磐城米が劣等だけに平、四倉、勿來の各穀物検査所が聯合して之が獎勵を行つてゐるも容易に徹底せず昨今に至つてやうやく曙光を見るに至り石城郡植田、神谷、草野、小川、大浦、磐崎、勿來、錦、川部九ヶ村では卒先して生産組合を組織し既に發會式を擧げるに至つたが来る二十日頃までには郡下全町村に亘つて組織されるものと見られてゐる

優良納税表彰 平稅務署では管内の優良納稅者の表彰式を來春早々舉行することとなり目下準備中であるがこの種催しは同署はじめての試みである

佐久良屋木炭店 が入賞と決定本社から巖谷小波先せい揮毫の短冊及び美術置時計を贈呈する事となつた、選外應募者に對しては上坂氏より夫々謝意を表す等、尙ほ上坂氏は屋號「佐久良屋」が非常に氣に入つたとの事にて今後同屋號により大いに奮闘業務の擴張發展を圖る由で一般の爲めに木炭のハカリ賣りを開始し一錢二錢の零細な求めにも喜んで應じ大勉強を爲すといふ

新川上流 堤防を修繕 工事に着手 平土木監督所ではさる二十一日の出水で破壊された平町新川上流の堤防修繕工事に對する縣土木課の豫算決定が概圖ついてゐた、これが工事を着手に行惱んでゐたが六日土木課より三千六十七圓の豫算決定の通知を受けたので直に工事に着手することになつた

消防出初式を 防火デーに舉行

本年は六日に繰延べ 平町消防組計畫準備

竣工期日は 十日間以内 岡田氏に落札

石城郡平町消防組ポンプ置場及夜警詰所建物計三十四坪を平警察署構内に建設する工事の請負は一般の入札に附し八日午後三時より同場内において執行した

上坂氏の懸賞屋號 けふ入賞者を發表

既報平町大町に木炭商を開業した上坂賢治氏の懸賞屋號は應募回答を審査の結果同町二丁目坂田金物店內濱邊武門君の命名

平町人事 出 生 新川町一六 持丸順徳氏長男信行 △四丁目二五 精米商鈴木英一氏 (二五) 双葉郡上岡村高橋キミ子 (二二) △栃木縣氏家町 長島光氏(二六) 榎小路一 鈴木カネ(二五) □ 死 亡 △新川町四 當時宇都宮市島町湧川 卯三郎(六五) △四丁目三 當時東京市淺草區小島 町齊藤鐵太郎(五二)

旅館 一力 浪江驛前

度量衡、計量器、吸入 用酸素、酸素吸入器

關内藥局

電話四〇番

警中動搖の導火線は……

職員間の反目

幸ひに今回の畫策は表面化せず

無事に解決

(昨報)同盟休校の決議を爲し多少不穩の形勢にあつた磐城ちう學校は其の後直ちに學校及平署當局にて緩和策を講じ一方同窓會幹部が斡旋に努めた結果問題は表面化せず平穩裡に解決されるものと觀られてゐるか五年せいの一部をして今日かくあらした原因を搜つてみるに同校職員間の多年にわたる暗闘と新校長に對する一部職員の不平和が今回の導火線となつて現はれたもの、如くである

何れが是か非か

兩山崎派の對立

常に物議の種を生む

……此上は新校長の手腕を屬望する

同校職員間の暗闘は故滑川校長在任當時に端を發しその後吉田、松平、西卷等諸教諭の

轉任に際しては常に忌しき風聞さへ立ち當時の生徒間に少なからず不安を抱かして同窓會員ちうも心よからず思つており遂に某々教諭排斥の聲も起つたのであつたが滑川校長と同郷の誼を奇貨とする某教諭の陰險なる手段に禍ひされ今日に至つたものである爾來同校は山崎(光)教諭と山崎(宣)教諭の二派に分れ生徒間にさへこの分派が影響した時代もあつた程であるが元來山

徒の虚に乘じ一部の生徒に根も葉もなき事を宣傳して今回の問題となつたもの、如くである、今や同校の痛とも見るべきものは一日も早く一掃し地方教育の府をして泰山の安きに置かしむべく新校長の抱負に俟つ所大なるものありと一般から橋本校長のしゆ腕に對して非常に囑望されてゐる

少年消防

隊旗贈與式

けふ井上氏宅に

石城郡平町消防組では第一小學校生徒を以て組織する少年消防隊に寄贈すべき隊旗、指揮、旗及マーク等全部出来あがつたので九日午前十一時消防組幹部立會の上井上組頭宅において消防隊を組織すべき生徒に對し贈與式舉行因に發會式は追つて日を選んで開催の筈

チフテリヤ流行

患者二十四名

市原醫院の豫防談
初期の手當が肝甚

死亡者もある

平町では去月末頃から幼児間にチフテリヤが猖獗してゐたが六日午後又復同町三丁目一長谷川爲子(三)立町二六岡田のふ子(四)田町一水野正子(五)の三名が發病田町六三平第一小學校一年

明日の天気
今夜は北東の風が西に變り幾分良き方に向ひ明日は北西の風小雪模様

- 前七、〇〇 ラヂオ体操
- 前九、〇〇 氣象通報
- 前九、一〇 日用品植段料理献立「東波肉、トンビ」
- 前九、二〇 中會根梅子發表
- 前九、三〇 家庭講座「お餅の召上り方いろいろ」
- 前九、四〇 梅田嬌葉發表
- 正午 時報
- 後〇、〇五 映畫物語「股旅しぐれ」開演好、獨唱羽衣歌子 伴奏指揮岡村郷吉
- 後〇、四〇 ニュース
- 後二、〇〇 家庭大學講座「植物と人生」第十一講「食用嗜好料植物」理學博士 川村清一
- 後三、四〇 氣象通報
- 後四、〇〇 ニュース
- 後五、四〇 職業紹介事項
- 後六、〇〇 子供の時間
- 後六、一五 前の日本」文學博士 村川堅固
- 後六、三〇 英語講座「初等科」三一 岡倉由三郎
- 後七、〇〇 ニュース
- 後七、二五 講演「郵便の便利に就いて」東京中央郵便局長 内藤勝藏
- 後八、〇〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲
- 後八、一〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲
- 後八、二〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲
- 後八、三〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲
- 後八、四〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲
- 後九、〇〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲
- 後九、一〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲
- 後九、二〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲
- 後九、三〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲
- 後九、四〇 尺八合奏「うすら日」町田嘉章作曲 尺八片山雄山 小西松山 玲

古墳「經塚」を發掘寶物を盗む
草野村の山林地内で
動かししか平署が検査の結果三女ユキ(三)か風呂場の灰を厩屋の裏に捨てたか風に煽られて遂に失火するに至つた事判明した

高久の火事は風呂灰から失火と判明
昨報石城郡高久村酒造業大谷喜作方の火災原因は放火説もあつて可成りに人心を

美佐男御召と
優秀銘仙陳列特賣
三井吳服店



東京 橋場捕物おぼえ

(米田安蔵書)

高橋の死體 (其三)

人殺しの話には随分聞いた事があるが、是れは又實に異様な殺人方法だ、何う云ふ検視の仕方をするか、佐賀町の親分が何んな見込みを立てるか、お千代は夫れを思ひ知りたくも在つたが、氣を奪へて用足しの方へ足を向ける事にした。

夫れは佐賀町の親分に氣を合せたのが嫌だつたからである。

何んで嫌だつたか……お千代は三浦屋敷と三浦屋敷に在るが、此川橋の下で、本蓑を取つて親分を殺して居た、佐賀町と橋下とを繋ぐ橋であるし、殊に阿つた水戸屋敷の家へ出入する、其

んな關係から見ては親分の死體へに掛り無しと考へて、此御を外し呼ばれ、相懸負になつた事がある、處が親分は名を水沼の平五郎と呼んで、女房もあり子もあるに係はらず、四十面を下げてお千代に思召が充分で、御合によれば小當りに當りさうらしい、夫れは平五郎親分のお千代を見る眼の色でも辨る、女ながら隠密の仕舞探察の業に妙を得て居る位のお千代だから、人の心を讀むのは誰よりも彼よりも早い、甘く誘惑して遂うく逃げおぼえ、思ひ合つた三浦屋敷と夫婦になつて仕舞つたが、跡で聞くと平五郎親分が、大層かゝるを教やし、三浦屋敷の事やお千代の事などは、吐き出すやうに言つたと云ふ、是れは跡に疑つた親分の親戚から、内々耳打ちをされたのだ。



然うした事情があるので、面白とか、大體だとか種々雑多の見世物か掛り、今日の草六郎以上の賑はひを極めて居たものだ。

世の多い人出を恐ろしみに茶屋の多くは、お千代に掛り、

赤い襦袢などを掛けて客の眼につき易く着飾り、見世先へ出て通る人に客を掛けて居る。

橋本と云ふ行燈を出した、掛茶屋の前へ来る。

「アラ三十間堀の娘さん……」と言ひながら家を出出したのは、二十歳位の綺麗な女だつた。

「オやお虎……」とお千代は一寸驚いたが、伴の徳松を頼みて「此處で少し休んで待かうよ」と云つた。

徳松を入口に待たせて、奥へ入つて行くと、掛茶屋のことで格段の設備がある筈はないが、大層へ出て居て、心持の好い川風がズン／＼と吹き上げて来る、夏場に持つて来いの掛茶だ。

「お虎、お前が斯んな所へ、出て居るとは話にも聞かなかつたが、是りやア好い思ひ付きだね！何してもお茶を一口お呉れ……」お千代は乾と平五郎のために、苦勞をさせられて居るのだと考へられたのである。

赤い襦袢などを掛けて客の眼につき易く着飾り、見世先へ出て通る人に客を掛けて居る。

橋本と云ふ行燈を出した、掛茶屋の前へ来る。

「アラ三十間堀の娘さん……」と言ひながら家を出出したのは、二十歳位の綺麗な女だつた。

「オやお虎……」とお千代は一寸驚いたが、伴の徳松を頼みて「此處で少し休んで待かうよ」と云つた。

徳松を入口に待たせて、奥へ入つて行くと、掛茶屋のことで格段の設備がある筈はないが、大層へ出て居て、心持の好い川風がズン／＼と吹き上げて来る、夏場に持つて来いの掛茶だ。

「お虎、お前が斯んな所へ、出て居るとは話にも聞かなかつたが、是りやア好い思ひ付きだね！何してもお茶を一口お呉れ……」お千代は乾と平五郎のために、苦勞をさせられて居るのだと考へられたのである。

て總は命用御の物刷印
番〇三六話電 株式会社 刷印日每警常

江戸前

うなドン 八十錢以上
かばやま 壹圓以上
大勉強仕出迅速致升

鳥料理 平館隣り
鰻蒲焼 魚 榮

電話四二四番

美味、滋養

シユウクリーム
一ツ五錢

目丁四平
ヤトモツマ
番四一二話電

井三の券品商
贈つて便利な
貫つて重寶

店服吳井三

淋毒 淋病 皮膚病 婦人病
門專 腸胃病 胃性 腸病
院醫科 院醫科 院醫科
七〇一話電

皆様のスピードの御用命は
電三四三番
使用車は三〇年式
セダン型です
何卒御用命を願ひます
平驛前 昭和タクシー

夜間も診療致します
丹野齒科醫院
日本大學 丹野 淳
平町白銀町十五番地
(鐵道官舎隣)

専門眼科醫師擔任
無料検眼 無料検眼券 御利用下サイ

信用アリ正確味萬點ノ時計
御客様本位ノ……眼鏡部

常盤屋時計店 電三三九

切斷の苦しみなく……
靈藥ムテキ
ゆびはれ、やけど、淋病、梅毒、さきさき、乳はれ、くさ、りうまぢ、その他化膿するもの一切

發賣元 阿康藥舖
古鍛冶町(縣社下)電話四四番

レメドール
ヤケド、ヒビ、其、他、ヒフ病、一切、ス、グ、キ、ク、効、力、本、位、が、ヨ、ク、ト、マ、ル

米國製藥 (無臭) 有偽物要注意
丹波博士創製 セキトメ

ヨウモーターン!
い服を求めたね
斷然三〇年型だよ
いやコレカネ
例の……「リレ」

正札堂

六三四電通場車停目町四町平